

2016 年度後期 学生授業評価アンケート集計結果に対するコメント

—法学研究科—

法学研究科長 鋤本 豊博

授業評価アンケートが組織的なFD活動の一環として各研究科に導入されて久しいが、特定の院生に対し、学部と同じ質問項目で調査することに、どれほどの意味があるのか分からない。前期に引き続き、ほとんどの質問項目で4.7（満点5）を超え、「総合的にこの授業を評価できる」という項目では4.94に達しており、評価数値からは改善すべき契機を見出し得ないからである。現状では、修了生アンケートで評価する方がより適切であるように思われる。

質問内容にも改善する余地があろう。評価数値が4.56に止まった「この授業のレベルはあなたにとって適切であった」という項目で、そう思うという以外の回答は、難し過ぎるということなのか易し過ぎるということなのか不明であり、「予習または復習をよくした」という項目にいう「よく」とは何時間なのか判断のしようがなく、評価数値4.37をどう受け止めてよいか戸惑いを覚えるのである。